

【第2回 伊勢市立小中学校適正規模化・適正配置基本計画(案)に係る検討会の概要】

- 1 日 時 平成28年6月21日(火) 19:00~20:30
- 2 場 所 小俣総合支所 第1・2会議室
- 3 出席者 深草正博、美濃松謙、伊豆 敏、宮本 彩、安田悦子 計5名
- 4 内 容

(1) 第1回検討会の概要報告

(2) 検討課題について

○豊浜・北浜地区の小学校について

★豊浜地区の2小学校、北浜地区の2小学校をどのように統合していくのか。

【検討の視点】

- ・児童数、学級数の推移
- ・教員数
- ・学校運営面
- ・通学距離
- ・通学方法
- ・地域への影響
- ・統合場所
- ・財政面
- ・防災面
- ・懸念されること
- など

【検討委員の意見(要旨)】

- ・「津波」などに対する防災という観点が重要である。
- ・学童クラブや老人と交流できる施設との複合化や学校の様々な役割を考える必要がある。
- ・地域によっては別の校区でも選択できるような調整区域などを活用し、子どもが通学しやすい学校へ行けるようにする。
- ・学校運営上、教員の資質能力の向上や出張時の対応等のためにも学年2学級以上必要と考える。
- ・市の適正規模の考え方(小学校各学年2~3学級)からすると、小学校1校に児童数は400前後必要。そこから推察していくと宮川左岸には、3、4校ぐらいの小学校数が適当と考える。
- ・地域の思いや防災面等を考えると、豊浜・北浜地区に小学校1校は必要である。
- ・2校ずつ統合してもほとんどの学年が1学級である。また再度統合ということになりかねないので、小学校4校を1校にした方がいい。ただし、地域へは丁寧に説明していく必要がある。
- ・4校を1校にすると、1小1中となるため、小中を隣接させ、小中連携や一貫という視点も検討していく必要がある。
- ・当初の計画どおり小学校2校を建設するより、4校を1校にすれば経費もかからない。さらに小中を隣接すれば共用できる部分もある。
- ・統合場所を統合中学校付近に建設すれば、小中の連携を今以上に密に図ることができる。